２００７年9月２６日

鹿児島市長
森　博 幸　殿

若き薩摩の群像を完成させる会
会 長　島 津 修 久

モニュメントから除外された藩士２人の追加建立に関する要請

鹿児島市が、５０万都市達成を記念して１９８２年に西鹿児島駅（現鹿児島中央駅）前に建立した「若き薩摩の群像」は、当時の薩摩藩が英国に派遣した使節団（留学生を含む）が１９人だったにも拘わらず、土佐出身の高見弥一と長崎出身の堀孝之の２人を藩外者としてモニュメントから外した１７人のみの群像となっています。

これは、英国使節団を派遣した江戸時代の薩摩藩の藩政に比べても、遥かに偏狭な行為との印象を人々に与えることになり、本来、鹿児島市当局や私たち市民が誇れる筈だったこのモニュメントが、逆に鹿児島の閉鎖性を表すシンボルと化しているのではないかと危惧されてなりません。

仮に、建立当時には除外された２人が薩摩藩士であったことを証明するに足る資料が無かったために「よそ者」として扱われたのであれば、近年の、２ 人は紛れも無い薩摩藩士だったとの研究文献や歴史研究者の意見なども参考にして頂き、群像への２人追加建立につきまして改めてご検討願いたく存じます。

そして、鹿児島を訪れる観光客に、「何故１７人だけ？」「藩外出身者だから２人を外したの？」と尋ねられた市民が答えに窮して恥ずかしい思いをしないためにも、鹿児島市当局には襟度を示して頂き、建立から２５年を経て、６０万都市となった今こそ、「若き薩摩の群像」に高見弥一と堀孝之の像を追加建立することによって、市民が後世まで誇れるモニュメントとして、これを完成させて頂きますよう心よりお願い申し上げます。

以　上

＜添付資料＞
１．趣意書
２．２人除外の経緯
３．「若き薩摩の群像」から外された二人のプロフィール